

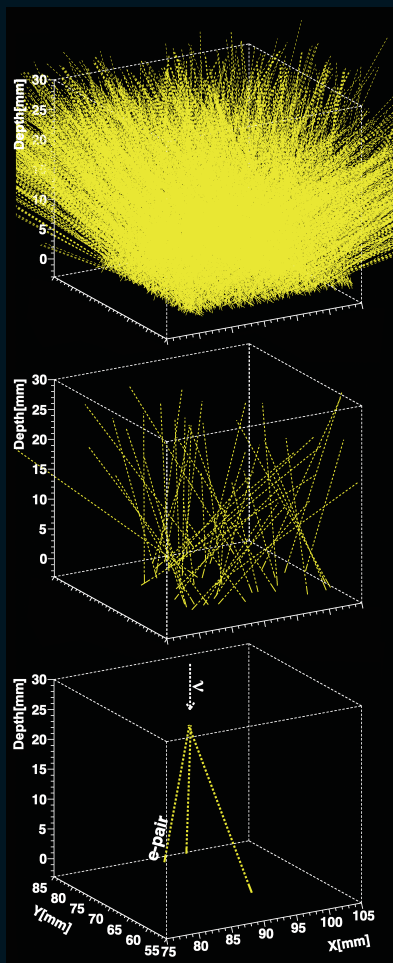
- ニュートリノ振動における
CP対称性の破れの探索とその意義
- テンソルネットワーク形式の進展と応用
- 多段シフターによる時間軸をもつ
原子核乾板検出器の開発

NO.

10

2017 | VOL. 72

B U T S U R I
日本物理学会誌



学会誌の3つの使い方

長谷川修司 (会誌編集委員長 shuji@surface.phys.s.u-tokyo.ac.jp)

森川前編集委員長のもと、副編集委員長として2年間の修行を積み、「満を持して」今年4月から会誌編集委員長となりました。と言っても何か秘策を引っさげての登場ではありませんので悪しからず。物理学会設立70周年記念の「70の不思議」連載も終わって、私の任期中には特に大きなイベントもありませんが、学会誌がもっともっと読まれるように地道に努力していきたいと考えています。

「物理学会誌って、自分の専門分野の記事が載っていないと、読むところ無いよね」とは、周辺の会員諸氏からときどき聞くお言葉ですが、若い頃の私も多分同じことを言っていたと思います。若い頃の私の学会誌との付き合い方といったらお恥ずかしい状態でした。毎月、学会誌が届くと、ビニール袋を破って取り出し、パラパラとめくって自分の専門分野の記事が無いのを確認したあと、すぐに本棚に直行、そのまま5、6年ほど「熟成」させて、年末の大掃除のときに古いほうから1、2年分を他の学会の会誌と一緒にビニール紐で括って古紙回収に出すといったことを繰り返していました。

もう25年以上も前のことですが、私がある企業の研究所に所属していたころ、同じ研究グループの数人と昼休みにお茶を飲みながら雑談していたとき、何かのきっかけで学会誌の話になりました。先輩の一人が、「長谷川君、学会誌には3つの使い方があるのを知っているかい？」と聞いてきました。その先輩によると、研究の解説記事だけが有用なのではなく、その他に、会告ページと広告ページが非常に役に立つというのです。今月号の学会誌で、興味ある研究解説記事が無かったとしても、会告と広告ページには有用な情報が満載だとその先輩は力説していました。

学会誌の会告ページ^{*1}には、人事公募や研究会などの会合情報、競争的研究費の公募情報が掲載されており、毎朝、日経新聞を読むビジネスマンのように、研究者なら毎月チェックすべきページです。今では物理学会でも人事公募情報をWebページに掲載していますし、JREC-INのようなサイトもあって、そちらのほうが速報性に優れているのは確かですが、それでも学会誌の人事公募欄は毎月目を通しておくべきです。私は、自分自身のステップアップのためだけでなく、教え子のためにも常日頃から公募ページは必ず見えています。また、研究会や基礎講座など、他学会・他団体が開く会合情報もたくさん掲載されています。自分の専門に近い分野の会合、自分が所属する大学や研究所の構内で開催される研究会もあつたりして、ちょっと顔を出してみようかなと思うものをときどき発見します。そんな会合に出席したことがきっかけになって自分の研究が新しい方向に進展するかもしれないし、少し違った分野の研究者と知り合いになるかもしれません。研究費の募集も重要な情報で、大小さまざまなスケールの研究費があるので、自分の研究の進展に応じて利用できます。特に若手研究者には会告ページを毎月「熟読」することを勧めます。

学会誌の広告ページは、特に実験家には重要な情報源です。毎月の学会誌の広告をパラパラとめくっているだけで実験機器やソフトウェアの最新情報が得られます。毎月見ていると、そのほとんどは見慣れた会社の見慣れた製品の広告ですが、ときどき、ハッとさせられるような新製品の広告が見つかることがあります。また、自分の研究の進展に応じて、見慣れた実験機器でも従来とは違った使い方を思いついたりします。それが、次の科研費の申請のネタになることもあります。気に

なった実験機器があったら、あらかじめ性能や価格を調べておき、秋の科研費申請の準備をしておきましょう。最近、会社の広告もWebが中心になって、どこの学会誌でも紙媒体での広告数が少なくなり学会収入が減少していますが、一研究者として広告ページに常日頃から目を通すという習慣は、これを長い年月継続しているとボディブローのように効いてくるものです。広告の情報から新しい研究のアイデアが閃くという可能性は低くないと思います。

最後に、研究解説記事についてですが、毎月開かれる編集会議でも、いかに当該分野以外の読者に記事を読んでもらうか、多くの時間とエネルギーを費やして議論しています。しかし、私自身、一読者にもどると、前述の会告と広告のページに比べれば、申し訳ないのですが、正直言って研究解説記事をほとんど読んでいません。「編集長がそんなことを言っているのか!？」という声が聞こえてきそうですが、自分の専門分野の記事以外はとても読もうという気力がわきません。なぜなのでしょう? まず、タイトルに自分の知らない専門用語が2つ以上入っていると、そこで終わります。また、本文中に式が羅列してあるとめまいがして読めません。逆に、一般的な言葉で書かれた魅力的なタイトル、あれ何だろうと思わせるアイキャッチとなる美しい図や写真があると読み出します。最近の記事にはリードページといって、最初の1ページだけを読むと、その研究の背景と意義がわかるようになっていきますので、最近ではそこだけは昼休みにお茶を飲みながら読むことにしています。とにかく専門の違った読者は、その研究の結果の詳細ではなく、その研究がなぜ重要なのかを知れば十分なのです。読者の皆さん、リードページだけでもすべて読んでください。

(2017年6月27日原稿受付)

^{*1} ここでは「掲示板」以降のページを指しています。